

●佐藤昇さん死す 九三年三月二十日

十九日朝十時、KSPに着くと間もなく安東仁兵衛さんから電話「今朝九時、佐藤さん死去」と。愕然とし、直ちに水戸への弔問を準備する。佐藤さんは東京外語英米卒、戦時中新聞記者、治安維持法で検挙、戦後出獄して評論活動。丸山真男さんも一目置いていた。五十年代の構造改革派の代表的論客。私も思想的、理論的影響を受けた。

早春の水戸の駅頭われ待てば 喪服の子息小走りて来る

(医者になった長男俊吾君は水戸で医院を開いていた)

春の陽を浴びし新居も空しかり 佐藤昇はすではやなし

(医院の隣に新築したばかりの夫妻の新居だったが・・・)

「佐藤さん！ 久保ですよ」と言いしまま 涙溢れて遺体を拝す

肺手術終えしばかりのスマ夫人 さきに逝きたかりしと涙にくるる